

女子大学生の安全意識に関する調査研究

著者	上野 優子, 徳永 謙次, 川之上 豊, 上野 奈初美
雑誌名	人間関係学研究 : 社会学社会心理学人間福祉学 : 大妻女子大学人間関係学部紀要
巻	20
ページ	101-110
発行年	2018
URL	http://id.nii.ac.jp/1114/00006700/

女子大学生の安全意識に関する調査研究

A survey of Safety Awareness of Female College Students

上野 優子 *, 徳永 謙次 **, 川之上 豊 **, 上野 奈初美 ***
Yuko UENO, Kenji TOKUNAGA, Yutaka KAWANOUE and Naumi UENO

<キーワード>

安全意識, 行動, 女子大学生, 安全教育

< Abstract >

A survey was conducted to determine the awareness of female college students regarding safety issues in their every day lives. A 44 question multiple-choice survey was given to 149 students. There were three possible answers : Yes / No / Not Sure. All 149 students completed the questionnaire. After receiving the completed questionnaires, the results were tallied. Then, a Spearman Correlation Coefficient was used to measure their behavior in relation to their awareness of danger. Each item was then classified into four different groups based on the ratio between action and awareness:

- The results of high action and high awareness included:
 - When riding a bike at night, turn the light on.
 - When opening and closing the door, make sure they are secure.
 - Drink sufficient water when exercising.
 - When riding a bike, be alert and responsible.
 - When opening an umbrella, observe surroundings.
- The results of low action and low awareness included:
 - When purchasing food, check for additives.
 - When purchasing food, notice its origin.
 - These may show that students have a high trust in food safety.

The followings are the results of high actions although students are not necessarily aware of the dangers that may be caused by them.

Eating food after it has expired.

Walking while using their smartphones and texting.

Walking while listening to some audio device with earphones such as an Ipod.

Trying to get on the train while the doors are closing.

Using smartphones near handicapped seating.

Regarding these items, advice may be needed to increase awareness of the danger that might arise from these actions and encourage students to modify their behaviors and actions.

* 大妻女子大学 人間関係学部 人間福祉学科

** 大妻女子大学 家政学部 児童学科

*** 小田原短期大学 保育学科

1. 目的

現在、教員養成課程を持っている大学において安全や防災に関する教育の必修化が進んでいる¹⁾²⁾。一般的に大学生は安全に関してどのような意識を持っているのであろうか。何を危険と考え、そしてその考えの下でどのように行動しているのか、実態を把握することは教職を目指す学生にかかわらず、大学における基礎教育を考える上で重要といえる。本研究は女子大学生を対象に、日常生活を含めた安全に関する広い知識について行動と認識の関係についての質問調査を行った。本稿では、大学における安全教育の普及の可能性についての予備的作業として、統計的な分析結果を中心に報告する。

2. 方法

(1) 調査対象

本調査の対象は、都内O女子大学で開講している健康スポーツ関連の授業を履修している1~4年生149名を対象とした。調査期間は、2018年1月中旬に実施した。

(2) 調査・分析方法

安全に関する意識と行動について44項目(食品・嗜好品6項目、交通9項目、生活・歩行10項目、運動5項目、その他14項目)から構成された質問紙を用いた。質問項目は、安全教育に関する文献³⁾⁴⁾⁵⁾⁶⁾⁷⁾⁸⁾、身体やスポーツに関する文献⁹⁾¹⁰⁾および先行研究¹¹⁾¹²⁾¹³⁾¹⁴⁾をもとに作成した。項目それぞれにおいて「普段行っている行動か否か」と、「その行動(行為)を危険と認識しているか否か」という質問に対して「はい」、「いいえ」、「どちらともいえない」の3件法で回答を得た。得られた回答をもとに、まずは単純集計を行い、次に行動と認識の関係について各項目のSpearman相関係数を算出した。統計的有意差検定の有意水準は0.05%とした。統計解析はIBM SPSS Statistics24にて実施した。

(3) 倫理的配慮

事前に調査の目的と方法、内容について口頭で

説明するとともに、①授業および教材開発の研究資料とすること、②得られたデータは本研究のみに使用し、他には使用しないこと、③回答しないことで不利益は被らないこと、④回答の途中で答えたくない場合は回答を中止してよいこと、⑤授業成績には影響しない、⑥回答は無記名とすることを説明し、調査への同意書を受領した。

3. 結果

行動と危険認識に関する各項目の単純集計表を表1-1、1-2、1-3に示す。食品・嗜好品で危険認識の割合が最も高かったのは、「1タバコを吸う(96.6%)」、行動割合が最も高かったのは、「6食事の前や帰宅時に手を洗う(79.9%)」であった。交通で危険認識の割合が最も高かったのは、「10赤信号で道路を横断する(96.6%)」、行動割合が最も高かったのは、「13自転車に夜乗る時にライトを点灯する(92.6%)」であった。生活・歩行で危険認識の割合が最も高かったのは、「22歩きながらタバコを吸う(93.3%)」、行動割合が最も高かったのは、「20戸締りやドアの施錠を確認する(89.9%)」であった。運動で危険認識の割合が最も高かったのは、「29炎天下での運動(85.2%)」、行動割合が最も高かったのは、「28運動時の水分補給(85.2%)」であった。その他で危険認識の割合が最も高かったのは、「32駆け込み乗車をする(89.9%)」、行動割合が最も高かったのは、「44SNS(91.3%)」であった。多くの項目において危険認識の割合と行動割合に有意差が認められた。

行動、危険認識それぞれの選択肢「はい」の割合を座標としてプロットした各項目を図1に示す。行動割合と危険認識割合は座標を4つに分割した。行動割合と危険認識割合ともに割合が高い右上のエリアには、「13自転車に夜乗る時にライトを点灯する」、「20戸締りやドアの施錠を確認する」、「28運動時の水分補給」、「12自転車に乗る前に安全運転を心がける」、「39傘をさす時の周りへの配慮」などがプロットされた。行動割合は低い、危険認識の割合が高い右下のエリアには、「1タバコを吸う」、「22歩きながらタバコを吸う」、「10赤信号で道路を横断する」、「14自転車に乗りながら携

表 1-1 各項目の行動と危険認識

No	分類	項目	カテゴリ	行動		危険認識		P値
				n	割合	n	割合	
1	食品・嗜好品	タバコを吸う	はい	1	0.7%	144	96.6%	<0.001 **
			どちらともいえない	0	0%	2	1.3%	
			いいえ	148	99.3%	3	2.0%	
2		お酒を飲む	はい	32	21.5%	106	71.1%	<0.001 **
			どちらともいえない	20	13.4%	33	22.1%	
			いいえ	97	65.1%	10	6.7%	
3		賞味期限の過ぎた食品を食べる	はい	66	44.3%	72	48.3%	0.115
			どちらともいえない	43	28.9%	53	35.6%	
			いいえ	40	26.8%	24	16.1%	
4		食品/食材の購入時に添加物の確認をする	はい	20	13.4%	43	28.9%	<0.001 **
			どちらともいえない	29	19.5%	57	38.3%	
			いいえ	100	67.1%	49	32.9%	
5		食品/食材の購入時に産地の確認をする	はい	47	31.5%	49	32.9%	0.014 *
			どちらともいえない	34	22.8%	57	38.3%	
			いいえ	68	45.6%	43	28.9%	
6		食事の前や帰宅時に手を洗う	はい	119	79.9%	114	76.5%	0.103
			どちらともいえない	21	14.1%	15	10.1%	
			いいえ	9	6.0%	20	13.4%	
7 交通		交差点や横断歩道での安全確認	はい	117	78.5%	127	85.2%	0.629
			どちらともいえない	28	18.8%	8	5.4%	
			いいえ	4	2.7%	14	9.4%	
8		横断歩道で信号の点滅時に横断する	はい	90	60.4%	116	77.9%	0.026 *
			どちらともいえない	47	31.5%	23	15.4%	
			いいえ	12	8.1%	10	6.7%	
9		横断歩道がないところで道路の横断をする	はい	78	52.3%	132	88.6%	<0.001 **
			どちらともいえない	45	30.2%	12	8.1%	
			いいえ	26	17.4%	5	3.4%	
10		赤信号で道路を横断する	はい	13	8.7%	144	96.6%	<0.001 **
			どちらともいえない	27	18.1%	2	1.3%	
			いいえ	109	73.2%	3	2.0%	
11		自転車に乗る前に整備を行う	はい	14	9.4%	66	44.3%	<0.001 **
			どちらともいえない	33	22.1%	36	24.2%	
			いいえ	102	68.5%	47	31.5%	
12		自転車に乗る前に安全運転を心がける	はい	124	83.2%	121	81.2%	0.323
			どちらともいえない	13	8.7%	8	5.4%	
			いいえ	12	8.1%	20	13.4%	
13		自転車に夜乗る時にライトを点灯する	はい	138	92.6%	123	82.6%	0.005 **
			どちらともいえない	5	3.4%	6	4.0%	
			いいえ	6	4.0%	20	13.4%	
14		自転車に乗りながら携帯(スマホ)の操作をする	はい	11	7.4%	141	94.6%	<0.001 **
			どちらともいえない	26	17.4%	3	2.0%	
			いいえ	112	75.2%	5	3.4%	
15		自転車に乗りながら携帯電話で通話する	はい	10	6.7%	139	93.3%	<0.001 **
			どちらともいえない	16	10.7%	5	3.4%	
			いいえ	123	82.6%	5	3.4%	

n=149、ウイルクソン符号付順位検定、*: P<0.05、**: P<0.01

表 1 - 2 各項目の行動と危険認識

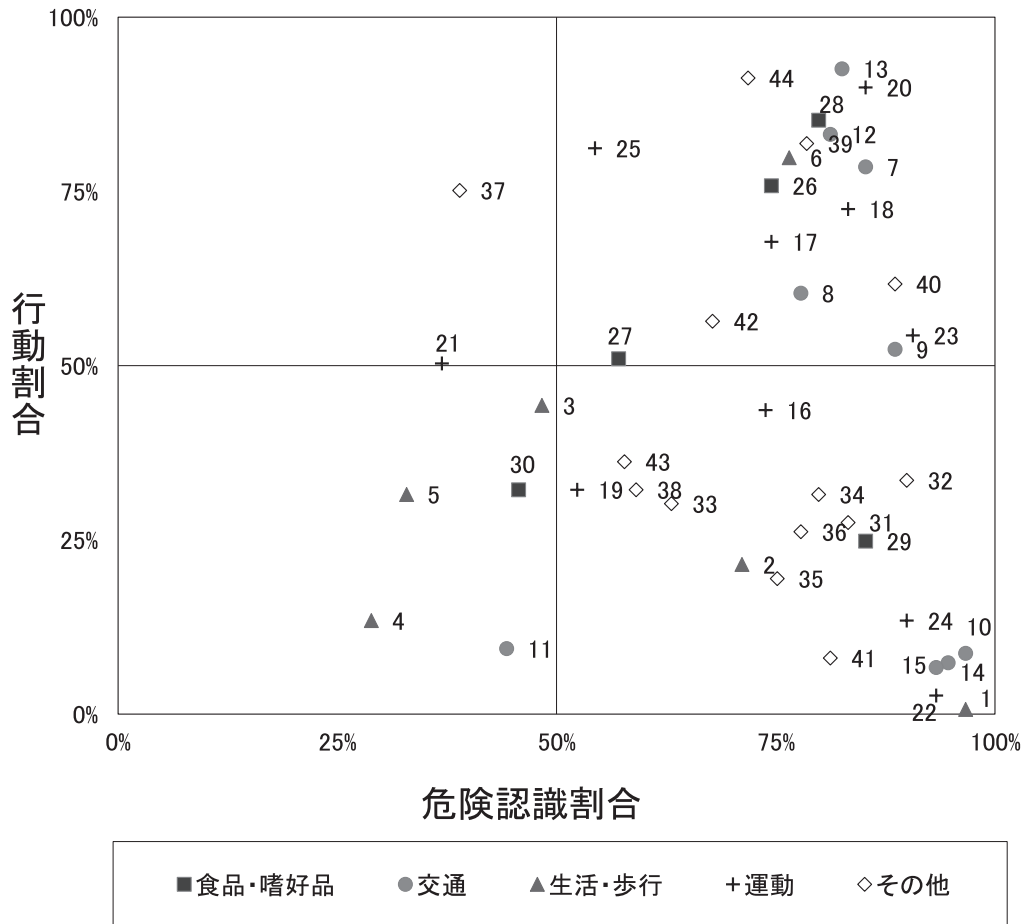
No	分類	項目	カテゴリ	行動		危険認識		P値
				n	割合	n	割合	
16	生活・歩行	ガスの元栓を確かめる	はい	65	43.6%	110	73.8%	<0.001 **
	どちらともいえない		19	12.8%	20	13.4%		
	いいえ		65	43.6%	19	12.8%		
17		ガスの使用時は換気扇か窓を開ける	はい	101	67.8%	111	74.5%	0.314
	どちらともいえない		23	15.4%	18	12.1%		
	いいえ		25	16.8%	20	13.4%		
18		コンセントを濡れた手でさわらない	はい	108	72.5%	124	83.2%	0.112
	どちらともいえない		26	17.4%	12	8.1%		
	いいえ		15	10.1%	13	8.7%		
19		コンセントは元から必ず(毎回)抜く	はい	48	32.2%	78	52.3%	<0.001 **
	どちらともいえない		44	29.5%	32	21.5%		
	いいえ		57	38.3%	39	26.2%		
20		戸締りやドアの施錠を確認する	はい	134	89.9%	127	85.2%	0.014 *
	どちらともいえない		11	7.4%	7	4.7%		
	いいえ		4	2.7%	15	10.1%		
21		かかとの低い靴を履く	はい	75	50.3%	55	36.9%	<0.001 **
	どちらともいえない		45	30.2%	42	28.2%		
	いいえ		29	19.5%	52	34.9%		
22		歩きながらタバコを吸う	はい	4	2.7%	139	93.3%	<0.001 **
	どちらともいえない		2	1.3%	4	2.7%		
	いいえ		143	96.0%	6	4.0%		
23		携帯電話を見たり操作しながら歩く	はい	81	54.4%	135	90.6%	<0.001 **
	どちらともいえない		46	30.9%	12	8.1%		
	いいえ		22	14.8%	2	1.3%		
24		本や雑誌を見ながら歩く	はい	20	13.4%	134	89.9%	<0.001 **
	どちらともいえない		16	10.7%	12	8.1%		
	いいえ		113	75.8%	3	2.0%		
25		iPod等の音楽用機器(イヤホン)を使いながら歩く	はい	121	81.2%	81	54.4%	0.005 **
	どちらともいえない		12	8.1%	48	32.2%		
	いいえ		16	10.7%	20	13.4%		
26	運動	運動前の準備運動	はい	113	75.8%	111	74.5%	0.040 *
	どちらともいえない		31	20.8%	17	11.4%		
	いいえ		5	3.4%	21	14.1%		
27		運動後のクールダウン	はい	76	51.0%	85	57.0%	0.558
	どちらともいえない		37	24.8%	28	18.8%		
	いいえ		36	24.2%	36	24.2%		
28		運動時の水分補給	はい	127	85.2%	119	79.9%	0.003 **
	どちらともいえない		20	13.4%	10	6.7%		
	いいえ		2	1.3%	20	13.4%		
29		炎天下での運動	はい	37	24.8%	127	85.2%	<0.001 **
	どちらともいえない		40	26.8%	19	12.8%		
	いいえ		72	48.3%	3	2.0%		
30		競技水準(体カレベル)の違う人が同時に運動する	はい	48	32.2%	68	45.6%	0.007 **
	どちらともいえない		50	33.6%	45	30.2%		
	いいえ		51	34.2%	36	24.2%		

n=149、ウイルクソソ符号付順位検定、*:P<0.05、**:P<0.01

表1-3 各項目の行動と危険認識

No	分類	項目	カテゴリ	行動		危険認識		P値
				n	割合	n	割合	
31	その他		はい	41	27.5%	124	83.2%	
		駅のホームの端を歩く	どちらともいえない	43	28.9%	15	10.1%	<0.001 **
	いいえ		65	43.6%	10	6.7%		
32			はい	50	33.6%	134	89.9%	
		駆け込み乗車をする	どちらともいえない	53	35.6%	13	8.7%	<0.001 **
			いいえ	46	30.9%	2	1.3%	
33		電車の優先席近くで携帯電話を使用する	はい	45	30.2%	94	63.1%	<0.001 **
	どちらともいえない		47	31.5%	33	22.1%		
	いいえ		57	38.3%	22	14.8%		
34		地震に対する備え・対策	はい	47	31.5%	119	79.9%	<0.001 **
	どちらともいえない		58	38.9%	16	10.7%		
	いいえ		44	29.5%	14	9.4%		
35		火災に対する備え・対策	はい	29	19.5%	112	75.2%	<0.001 **
	どちらともいえない		59	39.6%	18	12.1%		
	いいえ		61	40.9%	19	12.8%		
36		食物アレルギー	はい	39	26.2%	116	77.9%	<0.001 **
	どちらともいえない		20	13.4%	15	10.1%		
	いいえ		90	60.4%	18	12.1%		
37		化粧品	はい	112	75.2%	58	38.9%	<0.001 **
	どちらともいえない		18	12.1%	44	29.5%		
	いいえ		19	12.8%	47	31.5%		
38		薬品(サプリメント)	はい	48	32.2%	88	59.1%	<0.001 **
	どちらともいえない		16	10.7%	42	28.2%		
	いいえ		85	57.0%	19	12.8%		
39		傘をさす時の周りへの配慮	はい	122	81.9%	117	78.5%	0.135
	どちらともいえない		17	11.4%	16	10.7%		
	いいえ		10	6.7%	16	10.7%		
40		夜道での一人歩き	はい	92	61.7%	132	88.6%	<0.001 **
	どちらともいえない		31	20.8%	9	6.0%		
	いいえ		26	17.4%	8	5.4%		
41		キャッチセールスや訪問販売	はい	12	8.1%	121	81.2%	<0.001 **
	どちらともいえない		3	2.0%	15	10.1%		
	いいえ		134	89.9%	13	8.7%		
42		健康全般	はい	84	56.4%	101	67.8%	0.480
	どちらともいえない		50	33.6%	26	17.4%		
	いいえ		15	10.1%	22	14.8%		
43		メンタルヘルス	はい	54	36.2%	86	57.7%	<0.001 **
	どちらともいえない		51	34.2%	38	25.5%		
	いいえ		44	29.5%	25	16.8%		
44		SNS	はい	136	91.3%	107	71.8%	<0.001 **
	どちらともいえない		8	5.4%	26	17.4%		
	いいえ		5	3.4%	16	10.7%		

n=149、ウィルコクソン符号付順位検定、*:P<0.05、**:P<0.01



【食品・嗜好品】1.タバコを吸う 2.お酒を飲む 3.賞味期限の過ぎた食品を食べる 4.食品／食材の購入時に添加物の確認をする 5.食品／食材の購入時に産地の確認をする 6.食事の前や帰宅時に手を洗う 【交通】7.交差点や横断歩道での安全確認 8.横断歩道で信号の点滅時に横断する 9.横断歩道がないところで道路の横断をする 10.赤信号で道路を横断する 11.自転車に乗る前に整備を行う 12.自転車に乗る前に安全運転を心がける 13.自転車に夜乗る時にライトを点灯する 14.自転車に乗りながら携帯（スマホ）の操作をする 15.自転車に乗りながら携帯電話で通話する 【生活・歩行】16.ガスの元栓を確かめる 17.ガスの使用時は換気扇か窓を開ける 18.コンセントを濡れた手でさわらない 19.コンセントは元から必ず（毎回）抜く 20.戸締りやドアの施錠を確認する 21.かかとの低い靴を履く 22.歩きながらタバコを吸う 23.携帯電話を見たり操作しながら歩く 24.本や雑誌を見ながら歩く 25.iPod等の音楽用機器（イヤホン）を使いながら歩く 26.運動前の準備運動 【運動】27.運動後のクールダウン 28.運動時の水分補給 29.炎天下での運動 30.競技水準（体力レベル）の違う人が同時に運動する 【その他】31.駅のホームの端を歩く 32.駆け込み乗車をする 33.電車の優先席近くで携帯電話を使用する 34.地震に対する備え・対策 35.火災に対する備え・対策 36.食物アレルギー 37.化粧品 38.薬品（サプリメント） 39.傘をさす時の周りへの配慮 40.夜道での一人歩き 41.キャッチセールスや訪問販売 42.健康全般 43.メンタルヘルス 44.SNS

図1 各項目の行動割合と危険認識割合

帯(スマホ)の操作をする」, 「15 自転車に乗りながら携帯電話で通話する」などがプロットされた。行動割合が高く, 危険意識の割合が低い左上のエリアには「31 化粧品」, 「21 かかとの低い靴を履く」がプロットされた。行動割合, 危険認識ともに割合が低い左下のエリアには, 「4 食品/食材の購入時に添加物の確認をする」, 「5 食品/食材の購入時に産地の確認をする」, 「11 自転車に乗る前に整備を行う」, 「30 競技水準(体力レベル)の違う人が同時に運動する」, 「3 賞味期限の過ぎた食品を食べる」がプロットされた。

行動と認識の関係を表 2-1, 表 2-2 に示す。有意な相関が認められた項目の中で普段その行動を行っている学生ほど危険の認識が低い負の相関を示した項目があった。負の相関を示したのは, 「3 賞味期限の過ぎた食品を食べる」, 「23 携帯電話を見たり操作しながら歩く」, 「25 iPod 等の音楽用機器(イヤホン)を使いながら歩く」, 「31 駅のホームの端を歩く」, 「32 駆け込み乗車をする」, 「33 電車の優先席近くで携帯電話を使用する」であった。一方, 普段その行動を行っている学生ほど危険との認識が高い正の相関を示した項目は, 「4 食

表 2-1 行動と認識の関係

No		Spearman 相関係数	P値		
1	食品・嗜好品	タバコを吸う	0.015	0.853	
2		お酒を飲む	-0.156	0.057	
3		賞味期限の過ぎた食品を食べる	-0.251	0.002	**
4		食品/食材の購入時に添加物の確認をする	0.378	<0.001	**
5		食品/食材の購入時に産地の確認をする	0.491	<0.001	**
6		食事の前や帰宅時に手を洗う	0.094	0.254	
7	交通	交差点や横断歩道での安全確認	0.073	0.377	
8		横断歩道で信号の点滅時に横断する	-0.138	0.094	
9		横断歩道がないところで道路の横断をする	-0.130	0.115	
10		赤信号で道路を横断する	-0.062	0.450	
11		自転車に乗る前に整備を行う	0.319	<0.001	**
12		自転車に乗る前に安全運転を心がける	0.007	0.934	
13		自転車に夜乗る時にライトを点灯する	0.134	0.104	
14		自転車に乗りながら携帯(スマホ)の操作をする	-0.003	0.971	
15		自転車に乗りながら携帯電話で通話する	-0.143	0.082	
16	生活・歩行	ガスの元栓を確かめる	0.275	<0.001	**
17		ガスの使用時は換気扇か窓を開ける	0.270	<0.001	**
18		コンセントを濡れた手でさわらない	0.332	<0.001	**
19		コンセントは元から必ず(毎回)抜く	0.437	<0.001	**
20		戸締りやドアの施錠を確認する	0.191	0.020	*
21		かかとの低い靴を履く	0.357	<0.001	**
22		歩きながらタバコを吸う	0.055	0.506	
23		携帯電話を見たり操作しながら歩く	-0.171	0.037	*
24		本や雑誌を見ながら歩く	-0.130	0.114	
25		iPod等の音楽用機器(イヤホン)を使いながら歩く	-0.321	<0.001	**

n=149, *: P<0.05, **: P<0.01

表 2-2 行動と認識の関係

No		Spearman 相関係数	P値	
26	運動 運動前の準備運動	0.127	0.122	
27	運動後のクールダウン	0.256	0.002	**
28	運動時の水分補給	0.117	0.154	
29	炎天下での運動	-0.063	0.447	
30	競技水準(体力レベル)の違う人が同時に運動する	0.082	0.323	
31	その他 駅のホームの端を歩く	-0.208	0.011	*
32	駆け込み乗車をする	-0.186	0.023	*
33	電車の優先席近くで携帯電話を使用する	-0.324	<0.001	**
34	地震に対する備え・対策	0.056	0.500	
35	火災に対する備え・対策	0.137	0.095	
36	食物アレルギー	0.220	0.007	**
37	化粧品	-0.004	0.958	
38	薬品(サプリメント)	0.182	0.026	*
39	傘をさす時の周りへの配慮	0.428	<0.001	**
40	夜道での一人歩き	-0.076	0.354	
41	キャッチセールスや訪問販売	0.096	0.243	
42	健康全般	0.242	0.003	**
43	メンタルヘルス	0.453	<0.001	**
44	SNS	0.023	0.784	

n=149、*:P<0.05、**:P<0.01

品／食材の購入時に添加物の確認をする」, 「5 食品／食材の購入時に産地の確認をする」, 「11 自転車に乗る前に整備を行う」, 「16 ガスの元栓を確かめる」, 「17 ガスの使用時は換気扇か窓を開ける」, 「18 コンセントを濡れた手でさわらない」, 「19 コンセントは元から必ず(毎回)抜く」, 「20 戸締りやドアの施錠を確認する」, 「21 かかとの低い靴を履く」, 「27 運動後のクールダウン」, 「36 食物アレルギー」, 「38 薬品(サプリメント)」, 「39 傘をさす時の周りへの配慮」, 「42 健康全般」, 「43 メンタルヘルス」であった。

4. 考察

本調査によって学生の日常行動およびその行動に対する危険認識の実態が明らかになった。各項目の行動有無とその危険認識の多くで有意差が認められ、本稿にて対象とした行動項目の中には実

際に行動しているが危険認識は低い、あるいは、行動していないが、危険認識が高い項目が存在することがわかった。各項目を行動割合の高低と危険認識割合の高低で4象限に分類した結果、行動、危険認識ともに割合が高い項目として、「13 自転車に夜乗る時にライトを点灯する」, 「20 戸締りやドアの施錠を確認する」, 「28 運動時の水分補給」, 「12 自転車に乗る前に安全運転を心がける」, 「39 傘をさす時の周りへの配慮」, 行動割合が低く、危険認識の割合が高い項目として、「1 タバコを吸う」, 「22 歩きながらタバコを吸う」, 「10 赤信号で道路を横断する」, 「14 自転車に乗りながら携帯(スマホ)の操作をする」, 「15 自転車に乗りながら携帯電話で通話する」が抽出された。この結果から、学生の健康への関心および交通安全および法令順守の姿勢を垣間見ることができた。行動割合が高く、危険の意識の割合が低い項目としては、

「31化粧品」, 「21かかとの低い靴を履く」が抽出された。化粧品は法的にも人体への影響が緩和な成分で製造された製品であるが, 学生は危険性は感じず化粧品を使用していることがわかった。行動割合, 危険認識ともに割合が低い項目としては「4食品/食材の購入時に添加物の確認をする」, 「5食品/食材の購入時に産地の確認をする」が抽出され, 学生の食品・食材への安心感・信頼感の高さが確認された。また行動と危険認識の関係の分析から, 普段その行動を行っている学生ほど危険との認識が低い項目として, 「賞味期限の過ぎた食品を食べる」, 「携帯電話を見たり操作しながら歩く」, 「iPod等の音楽用機器(イヤホン)を使いながら歩く」, 「駅のホームの端を歩く」, 「駆け込み乗車をする」, 「電車の優先席近くで携帯電話を使用する」が抽出された。これらの項目については, その具体的な危険性についてICTなどを活用した啓蒙活動が必要と考えられる。

【要約】

女子大学生の安全に関する意識を広く把握することを目的に, 質問紙調査を実施した。

149名を対象に, 提示した44項目について(「はい」, 「どちらともいえない」, 「いいえ」)の3件法で回答を求め単純集計を行った。次に行動と危険認識との関係について, Spearman相関係数を算出した。

各項目を行動割合の高低と危険認識割合の高低で4つに分類した。

その結果, 行動, 危険認識ともに割合が高い項目として, 「自転車に夜乗る時にライトを点滅する」, 「戸締りやドアの施錠を確認する」, 「運動時の水分補給」, 「自転車に乗る時に安全運転を心がける」, 「傘をさす時の周りへの配慮」があげられた。一方, 行動割合, 危険認識ともに低い項目として, 「食品・食材の購入時に添加物の確認をする」, 「食品・食材の購入時に産地の確認をする」が抽出された。学生の食に対する安心感の高さが確認された。また, 行動と危険認識との関係から, 普段その行動を行っている学生ほど危険との認識

が低い項目として「賞味期限の過ぎた食品を食べる」, 「携帯電話を見たり操作しながら歩く」, 「ipod等の音楽機器(イヤホン)を使いながら歩く」, 「駅のホームの端を歩く」, 「駆け込み乗車をする」, 「電車の優先席近くで携帯電話を使用する」が抽出された。これらの項目についての意識を高め, 行動につながるような働きかけが必要と考えられる。

【文献】

- 1) 教職課程コアカリキュラムの在り方に関する検討会(2017).『教職課程コアカリキュラム』
- 2) 根岸千悠(2014).「国立大学教員養成学部における学校安全に関する取り組み状況について」藤川大祐(編)『社会とつながる学校教育に関する研究(2)(千葉大学人文社会科学研究所研究プロジェクト報告書)』第277集
- 3) 萩須隆雄, 斉藤歎能(1997).子どもの事故と安全教育:生活の中に潜む危険,玉川大学出版部
- 4) 萩須隆雄, 斉藤歎能, 関口準編(2004).遊び場の安全ハンドブック,玉川大学出版部
- 5) 古田一雄, 長崎晋也(2007).安全学入門:安全を理解し,確保するための基礎知識と手法,日科技連出版社
- 6) 村上陽一郎(2005).安全と安心の科学,集英社
- 7) 独立行政法人日本スポーツ振興センター(2012).学校の管理下の災害25—基本統計—,独立行政法人日本スポーツ振興センター
- 8) 独立行政法人日本スポーツ振興センター学校安全部(2013).学校の管理下の死亡・障害事例と事故防止の留意点(平成24年度版),独立行政法人日本スポーツ振興センター学校安全部
- 9) 宮下充正, 武藤芳照他(1993)フィットネスQ&A:指導者のための基礎知識(改訂第2版),南江堂
- 10) 東京大学身体運動科学研究室編(2000).教

養としてのスポーツ・身体運動, 東京大学出版会

- 11) 出町一郎, 鈴木美枝子 (2013) . 教員養成課程に所属する大学生の安全への意識, 玉川大学教育学部紀要
- 12) 藤永新子, 原田江梨子他 (2012) . 看護大学生の健康の意識と対処行動の実態 (第2報), 甲南女子大学研究紀要第6号 看護学・リハビリテーション学編
- 13) 坂本真理 (2011) . 学校安全からの学校防災教育アプローチの可能性, 社会安全学研究創刊号
- 14) 佐見由紀子, 植田誠治 (2018) . 中学校保健学習における健康・安全の問題に対する「重大性」と「罹患性」の自覚の実態, 学校保健研究